

## 新 節安花とび踊り 会員も加わり、盛大に開催

「節安花とび踊り」は2月22日、節安薬師堂=父野川上=で行われました。戦国時代から続く当行事は、安産や家内安全を祈願するものです。今年は例年より多くの人々が訪れ、新たに会員が加った保存会会員らの踊りにそれぞれの思いを託していました。

踊り終えた会員らは、多くの来場者を前に、いつも以上に力が入った様子で、「いい緊張感を持って踊ることができた」と語っていました。

また行事後は、来場者と会員らでなおらいをし、交流を深めていました。



## 文 平成22年度鬼北文楽人形保存研修会 楽のプロから手厚い指導

「平成22年度鬼北文楽人形保存研修会」は2月27日、中央公民館、泉小学校などで行われ、鬼北文楽保存会の会員12人が、文楽のいろはを学びました。

午後1時から行われた研修会では、阿波木偶制作保存会の甘利洋一郎さん=東京都=を講師に、鬼北文楽の視察が行われました。甘利さんは視察の中で、保管されている人形を一つひとつ手に取り、人形の状態確認や修復を行ったほか、技術指導においても細かな動きまで丁寧に指導していました。



## 鬼 北の特産、大盛況 きじ鍋祭り

鬼北町の特産品「鬼北熟成きじ」のPRイベント「きじ鍋祭り」は2月20日、成川渓谷休養センターで行われ、町内外から集まった多くの家族連れなどでにぎわいました。

会場では、きじ生産部会の会員がきじ鍋やきじ飯を600食限定で販売。その販売テントには、長蛇の列ができるほどの盛況ぶり。その他にも、町内で採れた野菜や低タンパク米で作られた「どぶろく」の販売もあり、来場者は鬼北町の特産品を堪能しました。



## 災害に備えた適切な予防措置を 災害時における電算システムに関する復旧支援協定調印式

「災害時における電算システムに関する復旧支援協定調印式」は2月22日、近永公民館2階講堂で行われました。

式では、「災害時に、電算システムは住民の安否確認など重要な役割を担っている。被災後も業務を早期に復旧させることが重要」などの説明があり、甲岡鬼北町長と株式会社愛媛電算の越智建夫代表取締役社長が、それぞれ協定書にサインをしました。

このような取り組みは全国的にも大変珍しく、万が一の場合も迅速かつ的確に対応できることを目的としています。